

原発埼玉県民投票の結果を

お知らせします

埼玉県でも「原子力発電」の是非を問う住民投票を行なえるよう、埼玉県議会に「条例をつくってほしい」と直接請求できる署名集めが昨年の11月にスタートしました。

「原発埼玉県民投票準備会」のもと、秩父地域では「原発とめよう秩父人」の方々が先頭にたって訴えていました。

結果は、62760筆、法定署名数に届かず、今回は住民投票の実現に至りませんでした。が、会として県議会に「請願書」を提出しました。

一か月という短い期間に総選挙や年末年始で中断することもありましたが、皆野町では法定署名数を超える3008筆（投票権のある有権者）、のみなさんのご賛同がありました。

署名のことを知らなかった人も多かったようです。

今回は、思いを同じくする人・団体にも多く呼びかけて成功させたいですね。



原発再稼働に前のめり

現在、国内の原発は2013年9月から約一年半、一基も動いていません。今も電気は足りています。

しかし、東電や国の対応は太陽光発電の事業者からの買取りを控えています。

- ・再稼働の前提となる新規制基準に鹿児島県川内原発、福井県高浜原発に「適合」の判断を与えませんでした。

- ・福島県の放射能汚染地域を随時避難解除と、解除による補償の打ち切り。

- ・県外に避難した事業者への補償を2月で打ち切り。

安倍首相は、口では国民の安心・安全、福島復興と言いつつも被災者を見捨てようとしています。業界企業を連れて原発輸出を強め、儲け最優先です。

ドイツのように「脱原発」を決めれば、日本の技術力をもってすれば再生可能エネルギーへの大進歩は可能です。日本政府が真の安全を求め、決断するかどうかです。自分の健康と命を守るために声を上げ続けていきましょう。

政党助成金 いつまで続ける

税務専門紙「納税通信」2月2日

号が「既存政党による税の私物化、政党助成金 分捕り合戦」のおお粗末」と題した1面記事で、助成金目当て

の駆け込み結党やため込み金の実態を示し「政党は、やめるにやめられない麻薬と化した政党助成金をいつまで受け続けるのか」と主張しています。

政党助成金の問題点は「その自由な使い道にもある」クラブやバーなどの飲食店のほか、税金の支払いにも使われていることを指摘。さらに政党に分配された政党助成金が議員の資金管理団体などに振り分けられるカラクリを告発し「資金管理団体に入ってしまうところから先は完全に闇となる」と批判しています。「税金は、回りまわって『国民が幸せになる』という建前のもとに徴収されている。だが、この政党助成金はどこをどう繕ってもそうした建前はみえてこない」「一度でも身体が覚えてしまったら抜けれない麻薬と同じだ」

と政党助成金を痛烈に批判。「麻薬を取り上げるのが、患者にとっても最適な「治療」のはずだが、各党はどこまで自浄能力を示せるか」と問いかけています。(赤旗日刊紙より)

議員のひとりごと

常山 知子

天気予報は雪でした。その日(二月五日)医療生協さいたま皆野支部で「新春組合員交流会」を予定。雪が降れば来れない人もいるのでは？久しぶりに三沢の集落センターを借りて交流会をやる計画です。案の定、朝から雪。でも心配することはありませんでした。

みんなで輪になって「ちちぶお茶のみ体操」(茶トシ)のびのびストレッチで身体を動かし、手指を使って脳イキイキ、料理担当が野菜たっぷりの豚汁をつくり、お弁当を食べながら交流。午後からは、秩父生協病院の看護師から認知症予防の話、認知症のテストではみんな真剣そのもの。「楽しかった」「体操をもっとやって元気になりたい」そんな声が聞こえました。

地域包括センターの方も参加して「こうした集まりが色々な地域でできるといいですね」本当にその通りです。医療生協も楽しい地域づくりに、これからもがんばらしたいと思います。

帰りには心配した雪は止んでいました。

大企業の内部留保を賃上げに！
原発ゼロこそ経済に展望をひらく！

生活・法律相談 お気軽にご相談下さい
常山 知子 電話・FAX 62-6733